

# 重度障害のある人向け在宅就労セミナー 「はたらくカタチは、ひとつじゃない」開催

社会福祉法人 東京コロニー 東京都葛飾福祉工場  
〒125-0042 東京都葛飾区金町 2-8-20

## 助成事業の概要

通信技術（IT）等の急速な発展により、「在宅勤務」「テレワーク」といったワークスタイルが浸透しつつあるなか、これらは障害のある人にとっても職域拡大の追い風として注目されている。

こうした中、東京都葛飾福祉工場（以下、当工場）は 2013 年に、就労支援系の障害福祉サービス事業所としては初の在宅勤務制度（就労継続支援 A 型事業の在宅利用）を導入した。あわせて、その原型となった「在宅就労グループ es-team（エス・チーム）」の結成 15 周年を機として、重度障害のある人の在宅就労の歴史と制度の変遷、課題などを探る記念セミナーを東京都内において開催した。

**実施日** 2015（平成 27）年 6 月 17 日（水）  
13:30～16:30

**セミナータイトル** 「重度障害のある人向け在宅就労セミナー『はたらくカタチは、ひとつじゃない』」

**参加者** 在宅就労者、これから在宅就労を希望する人、企業関係者等 計 30 名

**プログラム** 別紙参照

## 事業の成果

プログラム 1「es-team の 15 年の振り返りと制度の変遷」では、2000 年に、雇用や福祉的就労以外の「第 3 の働き方」をめざして結成されたフリーランス集団「在宅就労グループ

es-team」の活動を通じ、IT を活用した在宅就労の仕事の具体的事例、運営の仕組み、後押しする制度や法律などの解説を行った。「es-team」を運営してきた東京コロニーの実践録は、そのまま障害のある人たちの日本における在宅就労の歴史ともいえる。制度の変遷と、就労支援事業所における直近の取組みを報告しつつ、現在の到達点がどこまで来たのかを把握し、共有することができた。また、東京都障害者 IT 地域支援センターからの情報提供として「はたらくアプリ」と題した携帯端末向けのアプリの紹介・デモを行い、在宅就労を後押しする便利なツールについて共有できた。

プログラム 2「旅に出よう！ 進化するバリアフリー旅行」では、旅のヒントになる情報のほか、支援組織の充実、法制度の変遷などについても触れた。就労等は異なったアプローチのテーマではあったが、旅の充実も就労の充実も根本は密接なつながりがあるという実感を伴う講義であった。

30 名規模とはいえ、在宅就労をテーマとしたイベント等がまだ全国的にも数少ない中、制度・実務の両面をとらえたセミナーを開催できたのは大きな成果であった。また、対象者の大半が、在宅就労を希望する本人や家族、付き添いの介助者ということもあり、当事者の視線、切実な声などを拾い、参加者全員で議論するなどの機会も得たことは大きな収穫であった。

特に参加者の声の中に「就労系サービスと介護系サービスの併給（同時利用）ができないことが大きな制度上の壁となり、在宅就労の機会が制限されている」という問題提起があり、これについて

はかねてより行政機関に対し要望を重ねてきたが、このセミナーであらためてクローズアップされたことにより、後述する福祉新聞の記事として大きく取り上げられるなど、さらなる関心と呼びかけともなった。

## ■ 成果の広報、公表

---

前述のとおり、セミナーのようすや諸課題について、福祉新聞（2015 年 7 月 27 日号「IT でひるがる障害者の在宅就労」）に大きく取り上げられたこともあり、在宅就労という働き方の現状についてさらに関心が高まった。また、この記事のほか、セミナーの詳細、参加者の感想、今後の課題などをまとめた事業報告書を当工場の Web サイトに掲載したほか、一般社団法人ゼンコロの会報誌（2015 年 7 月号）にも参加者レポートを掲載した。

## ■ 今後の展開

---

「働くカタチは、ひとつじゃない。」これが、私たちが継続して唱えてきたテーマである。これからも障害のある人たちの在宅就労の可能性を確固としたものにするために、さまざまな活動を積極的に進めていく計画である。今回の課題としては、今回は当工場の身近な事例を中心としたものであったため、今後は他の地域や事例も探りながら、継続的な広報・啓発および実践に努めていきたいと考える。